



東日本大震災被災地の 消防設備等の早急な復旧などを決議

東北地区消防連絡協議会

平成二三年度東北地区消防連絡協議会(以下「連絡協議会」という)は七月一四日(木)、新潟県新潟市の「ホテルオークラ新潟」で、東北地区七県の消防協会から会長、副会長、事務局員ら合わせて六三名が出席して開催された。

連絡協議会では、開会に当たり、この度の東日本大震災で殉職された消防職・団員に黙祷を献じた後、櫻井守新潟県協会長があいさつを、新潟県知事(代理飯沼克英新潟県防災局長)、新潟市長(代理塚田桂祐副市長)は祝辞を述べられた。

会議では、前年度決議事項の処理状況について報告がなされた後、議事に入り、要望事項四件、協議事項五件が熱心に協議された。要望事項は全て承認され、総務省消防庁等へ要望することとなった。また、来年度の開催県を山形県に決定し、最後に、中泉秋田県協会長から「平成二

題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中泉 松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二十三年度全国統一防火標語
消したはず 決めつけしないで もう一度

四年度全国女性消防団員活性化大会を、皆様のご協力により秋田で開催することとなり、過日、実行委員会を立ち上げ、準備に入った。



東北地区の皆さんには、多くの女性団員が参加されるようお願いする」との要請がなされた。協議された中から主な事項について、他県の取組状況等を紹介する。

前年度決議事項の処理報告 消防団員雇用企業の優遇措置について

総務省消防庁長官 消防団協力事業所表示制度の活用・宣伝が課題と
思うが、状況を見ていきたい。
青森県 消防団協力事業所表示制度を導入している市町村が約六割であることから、今後の導入状況等を勘案しながら検討したい。

岩手県 平成二一年度から岩手県営建設工事競争入札参加資格審査において、団員の雇用に地域貢献点が加えられることとなった。なお、今後は税制等の優遇措置の検討も進めたい。

宮城県 平成二三・二四年度建設工事競争入札参加登録資格審査で、消防団協力事業所に対する評価項目が新設され、加点対象となった。
秋田県 県内の全市町村が、消防団協力事業所表示制度を導入した時点で、優遇措置を検討したい。

山形県 平成二十二年四月から建設工事における総合評価の地域貢献点項目で消防団協力事業所を加点対象としている。

福島県 条件付一般競争入札において、消防団員を継続雇用している消防団員雇用企業の場合には、評価点が加算される優遇措置を講じている。

新潟県 消防団に対し功労のあった事業所等の表彰制度について、来年度からの運用を目指している。なお、財政面でのハードルは非常に高く、引き続き多様な観点から施策を検討していきたい。

要望事項

東日本大震災被災地の消防設備等の早急な復旧について

東日本大震災被災地では、消防車両を始めとした消防設備、防火衣等の資機材の流失・損壊が多数報告されている。このことは、被災された方々が日常生活を取り戻す上で大きな障害となるため、早急な復旧を要望する。

要望事項

災害時における通信手段について

今回の震災において、気仙沼市ではタクシー会社の厚意により防災センターや各避難所にタクシーを一台配備することができたので、そこに団員を常駐させ、緊急要請の際、タクシー無線が活用された。大規模災害に備え、地域のタクシー会社と消防団が応援協定を結べるよう国や自治体に協力を要望する。

要望事項

津波、火山等の特殊災害の消防団員の行動マニュアルについて

東日本大震災では、多くの消防団員が避難誘導等の任務の必要性から自から避難できず、津波で犠牲となった。このような大災害時にあつては、消防団員が危険回避のため、避難することは許容されると考える。火山や津波等の予測を超える大災害

については、特別な行動マニュアルが必要と考えるので、国に対しその作成を要望する。

協議事項

全国女性消防団員活性化大会にかかる経費について

青森県 経費は参加市町村消防団が負担している。

岩手県 基本的には市町村負担。協会は情報交流会費等一部の経費を負担している。

宮城県 参加者の経費全額を協会が負担している。ただし、以前に協会経費で参加した消防団は除く。

秋田県 同大会を来年度開催するため、今年度は特例的な予算編成。

山形県 参加者一人当たり六千円を助成している。

福島県 予算の範囲内での助成。

新潟県 例年二十万円を予算化しており、参加者数等を勘案しながら助成している。

協議事項

消防団員福祉共済制度の掛金増額に対する各県の対応について

青森県 今月中に市町村事務担当者会議を開催し、実情を確実に伝達し、予算措置に万全を期すようお願いする。

岩手県 五月三〇日に日本消防協会や消防団長、市町村担当課長等が出席し、制度改革の説明会を開催



した。この共済制度は、他に例を見ない内容であることから、市町村の理解は得られるものと考えられている。

宮城県 大幅な改正は、大震災に伴う例外的なものであり、加入団員にはご理解をいただき、継続加入を促進してまいりたい。

秋田県 六月一日に市町村消防事務担当者・協会支部担当者会議を開催し、掛金増額等制度改革について説明し、予算措置や継続加入についてお願いした。

山形県 当該制度については、市町村との予算協議時に、消防団員活動のボランティア性に鑑み、他業務とは切り離れた特段の配慮を働きかけたい。

福島県 三年間の掛金増額は、団員の福祉確保のために必要であり、協力するしかないと考えている。

新潟県 この度の制度改革は大幅なものであることから、消防団長、市町村消防担当課長等に説明する必要があると考えている。

第一八回 全国女性消防団員活性化秋田大会実行委員会発足

第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会の実行委員会は、七月一二日(火)秋田市の「ルポールみずほ」で第一回目の実行委員会・幹事会合同会議を開催し、本格的に活動を開始した。

協議事項

開催要項(案) 月日 平成二四年一月九日(金) 一〇日(土)

場所 秋田市 大会テーマ

たくさんの応募ありがとうございました。審査の結果、次の作品が選出された。

『美の国へようこそ!』 女性消防団員、秋田で元気に

第18回 全国女性消防団員活性化秋田大会 実行委員会名簿

Table with 4 columns: Position (氏名), Affiliation (所属), Title (職名), and Name (氏名). It lists members of the organizing committee and the steering committee.

第七回 消 防 団 員 意見発表会(一)



齊藤 良二
・鹿角市消防団
班長
・勤続一六年
・会社役員

走ることが大好きで小学生の頃から長距離を得意とし、中学では一年生から正選手となり全県駅伝三連覇という偉業を成し遂げる。高校卒業後はサラリーマンとして都会に出るが、数年後地元に戻り結婚。その後消防団に入団し、その豊富な運動能力から操法大会で長きにわたり活躍した。現在は班長として後輩分団員の指導育成に努め、ポンプ車操法全県優勝を目標としている。

「日々、自己研さん」

私の家族構成は、両親、妻、三人の子供の七人家族です。

消防団に入ったのは、私が結婚した年の暮れに、消防団員から勧誘され、妻と相談し、「地域のために少しでも役に立てれば」と思い入団しました。

入団したその年に、ポンプ車操法の三番員を命じられました。消防操法訓練を一度も見たことのない私は

伝統と優勝という重圧に押しつぶされそうになりながらも、無我夢中に練習していた感じで、あつという間に大会が終わってしまいました。結果は、ポンプ車操法の部第二位でしたが、常に優勝を目指している先輩達には物足りない部分が数多くあったと思います。

翌年の消防操法訓練大会では、二年目のジnkクスでは無いと思えますが、普段の練習では考えられない苦い経験をしました。訓練が終わわり、うなだれている我々に、分団長、先輩達から、「最後まで諦めることなくよくやった」とねぎらいの言葉をかけてもらい、悔しさは残りましたが目標に向かい汗を流し、涙を流した事実は変わらず、指揮者を始め、団員の絆が一層深まったと感じました。

そしてこの経験が、これまでの消防活動に大きな影響があったことも事実です。

自宅が番屋に近いこともあり、サイレンが鳴るとポンプ車に乗車し出動することが多く、火災現場での消防活動も何度も体験し、火災の怖さも十分理解していると思っております。分団の管轄する地域において、工場火災が発生したときは、立ち上がる炎の高さに恐怖を感じました。水利が遠距離にあることから、消火

活動も思うように進まず、鹿角市では初めて全消防団出動という特命出動と成りました。近くの住宅や杉林への延焼はくい止めましたが、木材加工工場火災とあつてなかなか炎の勢いがおさまらず消火活動も長時間に及ぶことになりました。どの団員も顔は煤で黒くなり、疲労で声も出ないほどでした。厳しい条件と、あまりにも激しい炎と緊張のため、我

を忘れ無我夢中で消火活動を行っていた自分に気がつききました。第二、第三出場隊は任務を解かれ解散し、消火活動は地元分団となり、少し不安がよぎりましたが、気持ちをとりなおし、更なるホース延長を行い、残火処理を行いました。内部は障害物だらけで物影となる箇所がいくつもあり、なかなか消火活動が進まず、結局、「放水やめ」の指令が出たのは夜が明け始めた頃だったと思います。改めて、火災の恐怖を思い知らされたものでした。

この火災を期に、自治会を中心とした防災組織が立ちあげられ、消防団・婦人会・青年会等の各団体との連携を兼ねた、自治会全体での防災訓練が行われました。

我々消防団は、地域防災のリーダーとして率先し、地域団体と連携した活動を展開することにより、地域のつながり、結びつきを強め、新たな人的ネットワークの構築がはから

れました。それにより、消防団の活動課題の解消、活動の活性化においてもよき理解者となり、取り組みは有効な手段となりました。

我々消防団の活動は、この他に水防活動、遭難捜索活動等、あらゆる災害に対応し、その責務は生命に直結することから重大な任務となります。

その為には日々の訓練は言うまでもありませんが、広い知識、豊かな経験に基づいた強い信念が不可欠ですが、仕事を持ちながらの活動は正直つらいものがあります。折れそうになつたとき、家族の笑顔があります。この笑顔を守るため、日々つらい訓練に耐えられます。

振り返ると、入団してから、いろいろな災害を体験して来たと改めて感じます。今後もしつどんな災害が発生するかわかりませんが、どんな災害が発生しても対応できるように、日頃の訓練が確実に身につけられるよう、日々研さんしたいと思えます。

最後に、このたびの東日本大震災で未だなお行方不明となっている、消防団員に心からの哀悼と、一日も早い復興をお祈りします。がんばろう東北、元気で鹿角。ご静聴ありがとうございます。



北嶋 秀一

・ 上小阿仁村消防団 団員
・ 勤続一四年
・ 会社員

かたくなに拒んでいましたが、飲み会に誘われあえなく入団。今では、訓練や大会後の慰労会が楽しみの一つです。去年から年配の人達とパークゴルフを始め、最近では山菜採りにどっぷりはまっています。地域防災力を高めるためには、第一に地域を知ること、日頃から住民との触れ合いを大切にし、分団の中堅団員として頑張っています。

「地域住民と消防団の関わり」

去る三月一日の東日本大震災において、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げると共に、被災された地域、人々の一日も早い復興を切に願っております。

当時、私も勤務先工場で、あの強い揺れと遭遇いたしました。幸いにも従業員、工場とも大きな被害もなく、屋外へと避難することができました。

しかし、自宅の状況を心配する社員たちも電話が使えず、戸惑った事を記憶しております。このような状況において、消防団に属する私にと

つてどの様な対応をすべきなのか、改めて考えさせられる衝撃的な出来事であったと感じています。

さて、昨今の災害は地震に限らず風水害など、以前と比べ頻度が増し、なお且つその被害状況においては甚大なものとなり、多くの犠牲者を伴うものとなってきていると感じます。こうした中で、被害を最小限に抑える為には地域ぐるみの防災活動、意識向上がとても重要であると思います。私も実際、消防団に入る以前は、この様に考える事は全く無かったと思います。団の活動を通し、様々な災害を目の当たりにするにつれ、この様な悲惨な出来事を少しでも減らしていきたいと考えるようになりました。

建造物などは何とか再生できるとは言え、尊い人命は何物にも代え難いものであり、家族にとつては大変な苦しみであります。まずは「身の安全を確保する」これが災害において大変重要であると思います。

わが村でも、過去に河川の増水により避難勧告が出され、自治体職員と共に地域を一軒一軒回ったことがあります。

しかしながら、「今までも大丈夫だった」「前の洪水でもオラの家さだば水上がねがった」などと、なかなか受け入れられてもらえず、結局避難せずにいた住民も多くいたのが

事実であります。幸い何事もなく済んだのですが、こういった考えが、結局多大な犠牲を生む原因の一つだとも言えます。

わが村は高齢者世帯が多く、いざという時の避難には時間を要する人たちも多くいると思われまふ。この様な人達も含め、地域住民が一体となって災害時の対応を常に考え、訓練などにあたらなければと思います。

何事もなく済む事にこした事はありませんが、常に最悪な事態を想定し、それに対応する防災意識の向上を、消防団・地域住民が連携した行動を目指したいと考えます。

最後に先の大地震において、ある自治体職員は最後まで防災無線で避難を呼びかけ、また消防団員は危険を顧みず防潮扉を閉めに行き、どちらの方も残念な事に犠牲になられたとの事です。我が身を犠牲にしてまで地域を守ろうとした人達、私どもにすばらしい教訓を残してくれたと思います。

消防団員であることを誇りに、地域のために頑張っていきたいと思います。ご静聴ありがとうございます。



工藤 秀易

・ 三種町消防団 副分団長
・ 勤続一五年
・ 団体職員

町の社会福祉協議会に勤務。休日は野球の公認審判員として各種公式大会に携わっている。仲間との全国消防操法大会への出場を夢に訓練に励んでいる。

「消防団は第二の家族」

私が消防団に入団したのは、三三歳と、遅咲きのデビューでした。

それまでは好きな野球と今はなき青年会活動に没頭する青年時代でした。行政の臨時職員が長く、消防の試験も二度受けましたが、不採用でした。

そんな中で地元の消防車庫で青年会の後輩が団員として活動していた光景を見て、こんな若者たちがいれば地元は大丈夫、自分は消防とは縁がなかったんだと、自分自身に言い聞かせていました。

あるとき、ふと向かいの消防団員の先輩に、「消防団って誰でも入れるんですか？」と聞いたのが過ちの始まり。すぐに、勧誘が始まりました。地域の消防は自分が必要としてくれる。

迷っているときに分団長が消防の服を着た一人の団員を連れ説得に来ました。

我が町にALITとして来ていたカール・スペンサー・ブースです。

「は〜い、消防よろしくお願いますね〜」これには参りました。外人が頑張っているのに、日本人の自

分が入らないわけにはいきません。分団長の見事な手口でした。そうして新築の家に移転する自分の誕生日の二月一日を区切りに、入団を決めました。ちなみに消防会館にはしっかりとカールの出身地のイングラッド・ダービー州アシユボン消防署のヘルメットが飾られていました。消防団多しと言えども、外国人団員がいたのは我が分団だけではないでしょうか？

夏の操法練習が始まり、当時は、八郎湖堤防での練習、まだ地下足袋で操法した時代です。

しかし、この年から大幅な選手の入替えをし、上の大会を狙っていたことなど、到底知る由もありませんでした。

自動車ポンプの部で我が分団は、町・郡市大会を勝ち抜き、四三年ぶりの全県大会出場を決め、それ以来、全県大会常連となりました。

それまで町でも勝てないでいた状況も分からないで入団した私は、「ここは、これがあたりまえのところなんだ」と思っていました。ここまでするのに分団長の大変な研究と、熱い思いがあったことは、後に知ることになります。練習が終わっても、消防会館での反省会があります。酒が入って、熱が入っていると、メンバーで畳の縁を利用し、「集まれ」が始まったり、ホース展長が始まりました。

自然と「行くぞ横浜、全国大会」が合い言葉になり、小型ポンプの部で全県優勝を続けている山本豊岡班との交流や全国大会視察など、あらゆる情報収集にも力を入れ、指導員の厳しい指導のもと練習にも力が入っていました。

一五年間の中で、準優勝が二回、優勝一回と成績も上がってきましたが、肝心な全国出場がかかった年は今一步、実力を発揮できず優勝を勝ち取ることができずにいます。私自身も一番員として、三度出場し、全国がかかった年に失敗して、応援席への挨拶の場で人目も憚らず泣きました。

消防のほかには野球の審判をしますが、ついこの前、地元の球場で金足農業と青森の光星学院の練習試合があり、春の選抜出場校相手に、金足農業は足下にも及びませんでした。光星学院の合い言葉は「全国制覇」に対し、金足農業は何とかして甲子園に出たい、この差だと思えます。「消防でも同じことが言えるのでは」と思います。全県大会で優勝したいではなく、さらに全国大会での上位入賞を意識して向かって行かなくては、このレベルの高い秋田県では勝つことはできないのではないかとともに思い始めました。

私は現在、小型ポンプの指揮者をしていきますが、夢は大きく全国上位入賞を合い言葉に、仲間とともに団

結力を強めていきたいと思えます。さて近年、消防団員の減少が叫ばれている中、我が分団も例外ではありません。

昨年一月に後身に譲る形で分団長、副分団長の三名が退団し、団員も減少したほか、特徴として団員のサラリーマン化が進んでいます。火事場で一番大切な水利確保についても農家であれば、地元の水利等にも詳しいのですが、この点も団員と勉強が必要です。また、消防は操法がメインだと思いがちになることです。

副分団長になった今、地域の財産と生命を守ること、実際の災害現場で団員が安全に、的確に任務を全うできるようにするために、規律・操法訓練、ひいては予防活動があることを再認識させることが大切であると感じています。

私は、それぞれ別々の仕事を持ちながら、夜遅くまでの練習に駆けつけてくる仲間達が大好きです。地域のために一緒に頑張っている仲間を『第二の家族』だと思っています。そして、その仲間にも家族がいます。

サイレンが鳴って、ハンテンを羽織り飛び出していく姿を、不安な思いで待っている家族に、ケガなく無事「ただいま」と帰っていきけるよう、まだまだ習得していない防災知識を仲間と共に勉強していきたいと思えます。

森田ポンプ	ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管	消防被服一式
各種消火器	消防機器一式

株式会社 **協立** 能代消防センター 株式会社

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52) 6361
(52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防

ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備

火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル7F FAX 018 (824) 3651

第六五期初任教育

あきた病院で実習

秋田県消防学校

初任教育第六五期生九二名は、七月に入ると防火衣を着用しての検索要領訓練、三連梯子による搬送法訓練など教育訓練も専門的、実践的となってきたているが、炎暑の中、懸命に取り組んでいる。

こうした中、入校生は二班に分かれ六月三〇日、七月一日の両日、由利本荘市岩城の「あきた病院」で研修を行った。



今回は、この研修の感想文が寄せられたので紹介する。

あきた病院での研修を終えて



齊藤 愛
秋田市消防本部

今回、あきた病院で研修をさせて

頂き、普段入らないような場所です、今まで関わったことのない病気を患っている方々と関わり、貴重な経験が出来ました。

一人一人のコミュニケーションの取り方も目の付近の動きで伝えたり、ひたひたの動きで伝えたり、筆談で伝えたりなど様々で難しいなと感じました。今回は看護師の方について行って挨拶するのが精一杯で、常に接している看護師の方は、患者の方一人一人のコミュニケーションの仕方を把握し、対応して頂いてすこいなと思えました。

今回の実習で思ったことは、医療の現場もこれから私たちが行く災害の場もどんな人がいるか分からないということ、もしかしたら、思っていること、言いたいこと、自分の存在すら伝えることが出来ない人が災害現場にいるかもしれない。そういうことを考えると、今回の経験や学んだことを忘れず、今後にご活用していくことを考え、現場に行くときは常に頭に入れておかななくてはいけないことだと思えます。又、もっとコミュニケーション能力を付けて、いろんな方と接していけるようになりたいと思いました。



石川 貴一
湖東地区消防本部

研修を通して患者さんと看護師さんに触れることで、精神的な強さを感じる事ができた。私は南二棟を担当したが、自力で生活ができない方がほとんどでも驚いた。障害に負ける事なく、受け入れ生活している姿にとっても刺激を受けた。私も含め今の若者は、生活に困難を感じる環境に責任を押しつける傾向がある。大学時代、ラグビー部の監督に「新しい環境はまず受け入れ、そして自分を変えろ」と言われた事がある。患者さんの気持はわからないが、障害を受け入れ、前向きな姿勢は伝わってきた。

実習前の説明で、看護の基本的概念として「全人的存在」としてとらえる。看護の対象は人間である」という考えを聞いて、看護師さんと患者さんが信頼し合っている関係にある事に気付いた。偏見もなく疑いもなく、互いに信頼する事で、心から支える事ができると共に、支えてもらう事ができると思う。これは消防という職業でも通じるものがあり、仲間、救助者を信じる事で救助活動を行う事ができる。信頼するということは、言葉では表せても、心から思う事はとても難しい。今回、研修で学んだ精神的な強さを、残りの消防学校で少しでも多く身に付け、自分自身の成長につなげていきたい。



山本道太郎
大曲仙北広域消防本部

私は、筋ジストロフィーの患者さんが入院している所で実習し、普段では体感することのできないことを体験することができ、非常に良い経験をした。

患者さんの人生経験を聞いて勉強になる話がたくさんあった。また、消防学校での話をすると患者さんの方から自分を激励してくれて、元気をたくさんもらった。さまざまな話を聞いていくうちに、患者さんの表情が変わっていくのがわかった。言葉だけでは聞きとらえにくい部分も表情をみてわかるようになってきた。

実習を経験して、自分は五体満足なのだから、もっと一生懸命消防訓練を行っていかねければならないと痛感した。そして、患者さんたちが病気になるながらも前を向いて生活している姿をみて、自分が持っている悩みはちっぽけなものなんだなと思った。また、患者さんと看護師さんを見ていて、しっかりと信託関係ができていたように思う。自分も、これら同じ火事場に向う消防士との信託関係をもっと築いていかなければならないと思った。

住宅用火災警報器の普及状況の推計結果について

(平成23年6月時点)

総務省消防庁は、消防法の改正により設置義務化された住宅用火災警報器の推計普及率（平成23年6月時点）を8月8日に公表しましたので、その概要をお知らせします。

◆ 住宅用火災警報器の推計普及率の状況 ◆

◎平成23年6月時点の秋田県の推計普及率は62.3%で、前回（平成22年6月時点）に比べ、12.6ポイント上昇し、都道府県別の順位では、前回の37位から4つ上げて33位となっている。

◎全国平均は71.1%で、最高が東京都の88.2%、最低は沖縄県の51.3%。全国平均を上回っているのは12都道府県、35府県が全国平均を下回っている。

(資料提供：秋田県総務部総合防災課)

順位	都道府県名	H23.6時点推計普及率	H22.12時点推計普及率	比較増減(ポイント)
1	東京都	88.2%	79.2%	9.0 P
2	宮城県	87.5%	82.0%	5.5 P
3	石川県	82.2%	80.0%	2.2 P
4	京都府	81.9%	75.6%	6.3 P
5	福岡県	78.2%	73.2%	5.0 P
6	長崎県	78.1%	73.8%	4.3 P
7	愛知県	77.8%	70.9%	6.9 P
8	福井県	77.6%	56.8%	20.8 P
9	富山県	74.4%	73.8%	0.6 P
10	北海道	72.5%	66.4%	6.1 P
11	兵庫県	72.1%	63.1%	9.0 P
12	青森県	71.2%	71.2%	0.0 P
13	鹿児島県	70.8%	58.3%	12.5 P
14	大阪府	70.7%	62.3%	8.4 P
15	神奈川県	70.6%	61.4%	9.2 P
16	長野県	69.6%	65.9%	3.7 P
17	大分県	69.2%	47.7%	21.5 P
18	和歌山県	69.0%	59.8%	9.2 P
19	三重県	68.7%	64.5%	4.2 P
19	滋賀県	68.7%	58.0%	10.7 P
21	広島県	68.0%	52.3%	15.7 P
22	千葉県	67.7%	64.3%	3.4 P
23	山口県	66.4%	51.8%	14.6 P
24	埼玉県	65.7%	62.9%	2.8 P

順位	都道府県名	H23.6時点推計普及率	H22.12時点推計普及率	比較増減(ポイント)
25	静岡県	65.6%	65.6%	0.0 P
26	島根県	65.5%	46.7%	18.8 P
27	熊本県	65.4%	58.2%	7.2 P
28	山形県	64.8%	49.4%	15.4 P
29	栃木県	64.6%	62.8%	1.8 P
30	佐賀県	63.5%	53.2%	10.3 P
31	群馬県	63.4%	58.7%	4.7 P
32	香川県	62.7%	50.4%	12.3 P
33	秋田県	62.3%	49.7%	12.6 P
34	岐阜県	61.1%	47.7%	13.4 P
35	岩手県	61.0%	52.1%	8.9 P
36	奈良県	60.7%	55.9%	4.8 P
37	福島県	60.5%	54.1%	9.1 P
38	新潟県	60.1%	49.8%	10.3 P
39	徳島県	60.0%	51.5%	8.5 P
40	岡山県	59.1%	50.6%	8.5 P
41	高知県	58.6%	54.4%	4.2 P
42	鳥取県	58.3%	40.6%	17.7 P
43	宮崎県	57.3%	46.0%	11.3 P
44	茨城県	54.9%	49.7%	5.2 P
45	愛媛県	54.2%	45.4%	8.8 P
46	山梨県	53.8%	42.5%	11.3 P
47	沖縄県	51.3%	44.4%	6.9 P
全国平均		71.1%	63.6%	

住宅用火災警報器を設置しましょう!

消防法により、平成23年6月から全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

まだ設置していない方は、早期に設置しましょう。



支部情報アラカルト

平成二三年度消防訓練大会

横手市支部

七月二十四日(日)スタジアム大雄駐車場において開催されました。

当日は八消防団五二八名の団員が参加し、各地区大会からの代表団が日頃の訓練の成果を競い合いました。また、本年一〇月に開催される第二〇回全国女性操法大会に出場する横手市平鹿消防団の女性団員による軽可搬ポンプ操法が披露されました。会場の観客から大きな声援を受け、女性団員も全国操法大会にむけての決意を新たにしました。



女性消防団員による軽可搬ポンプ操法



規 律 訓 練



小型ポンプ操法MVP選手

また、本年度からは新たに小型ポンプ操法のMVP選手の支部長表彰が加わり、表彰式でMVP選手氏名が発表されると、会場は大きな歓声に包まれていました。なお、各種目の成績は次のとおりです。

(情報提供)横手市支部

種目別成績

- 規 律 訓 練 第1位 横手市平鹿消防団
第2位 横手市山内消防団
第3位 横手市十字消防団
- 小型ポンプ操法 第1位 横手市山内消防団
第2位 横手市大雄消防団
第3位 横手市平鹿消防団
- ポンプ車操法 第1位 横手市十字消防団
第2位 横手市雄物川消防団
第3位 横手市大森消防団
- 小型ポンプ操法MVP選手
指揮者 横手市大雄消防団 鈴木 司
1番員 横手市山内消防団 小林 勝也
2番員 横手市山内消防団 鶴田 修
3番員 横手市山内消防団 小林 和也

火災の発生状況(速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成23年		平成22年			同期比較	
	7月	累計	7月	累計	年計	7月	累計
建 物	15	129	16	148	235	- 1	- 19
林 野	2	13	0	12	13	2	1
車 輛	5	23	5	16	27	0	7
そ の 他	2	28	3	40	57	- 1	- 12
合 計	24	193	24	216	332	0	- 23
死 者 数	2	26	3	13	20	- 1	13
負 傷 者 数	8	36	7	42	58	1	- 6

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高義商会

- (営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp